



関西経済レポート(4月号)

- ➡ 生産は一般機械の減少により低下するも、総じて横ばい。
- ➡ 輸出は緩やかに回復。対米輸出は拡大するも、対アジア輸出は小幅増。
- ↑ 消費者センチメントは大幅に改善している。
- ➡ 個人消費は横ばい。住宅は駆け込み需要がみられる。
- ➡ 公共投資は踊り場。補正予算の執行はこれから。
- ➡ 円安株高をうけ、先行きの景気回復への期待が高まるも、その波及は足下においては限定的。

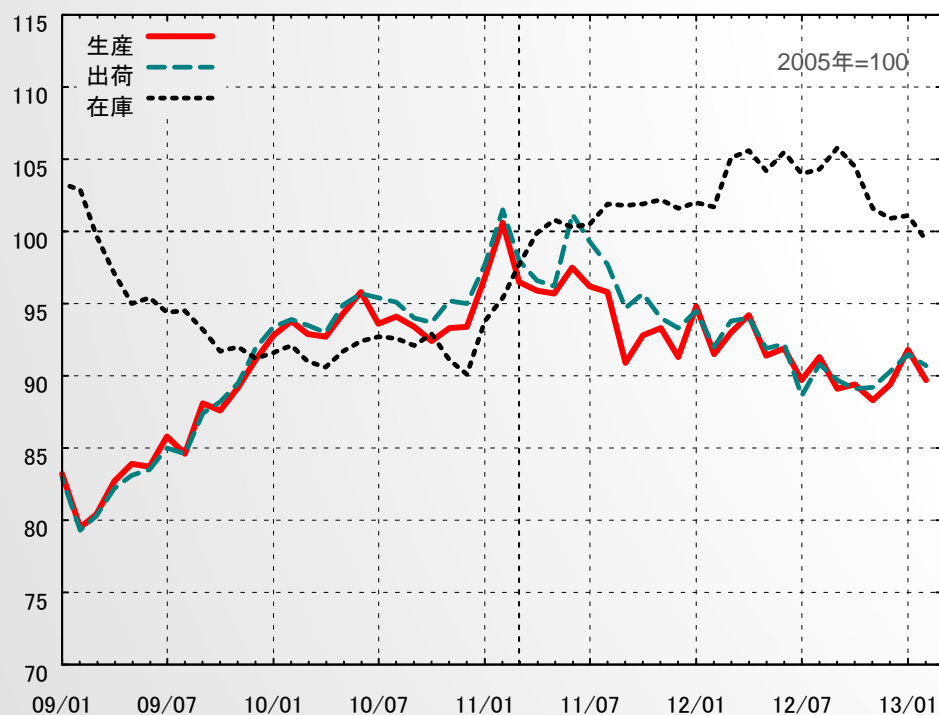
※「近畿」・「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向①	7
中国経済動向②	8

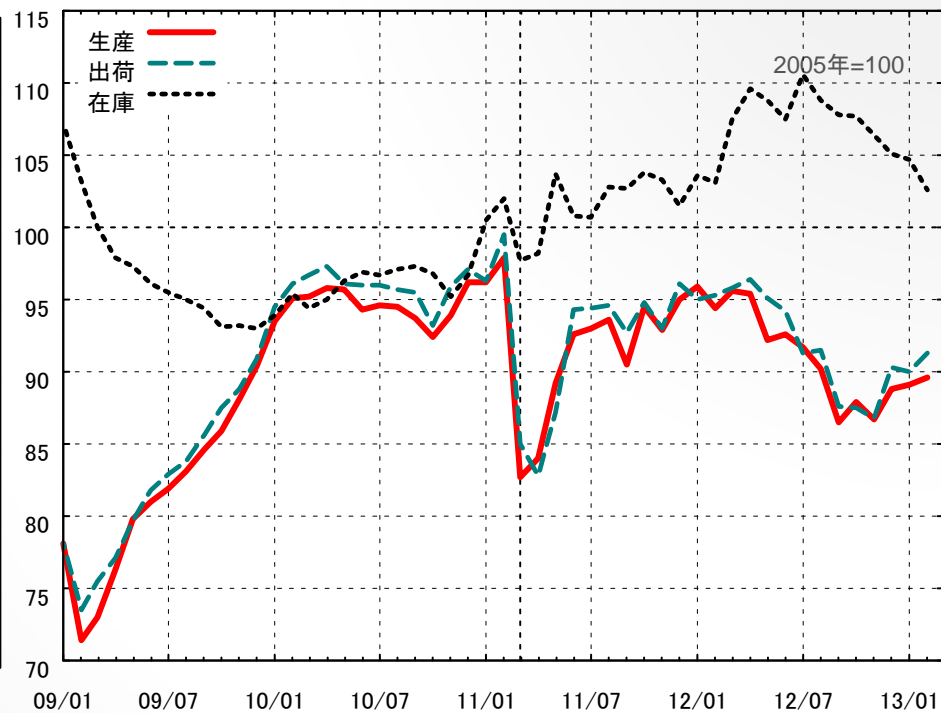
～生産～

鉱工業指数の推移（近畿・2013年2月まで）



（データ出所：「近畿経済の動向」（平成25年4月10日公表分）、近畿経済産業局）

鉱工業指数の推移（全国・2013年2月まで）

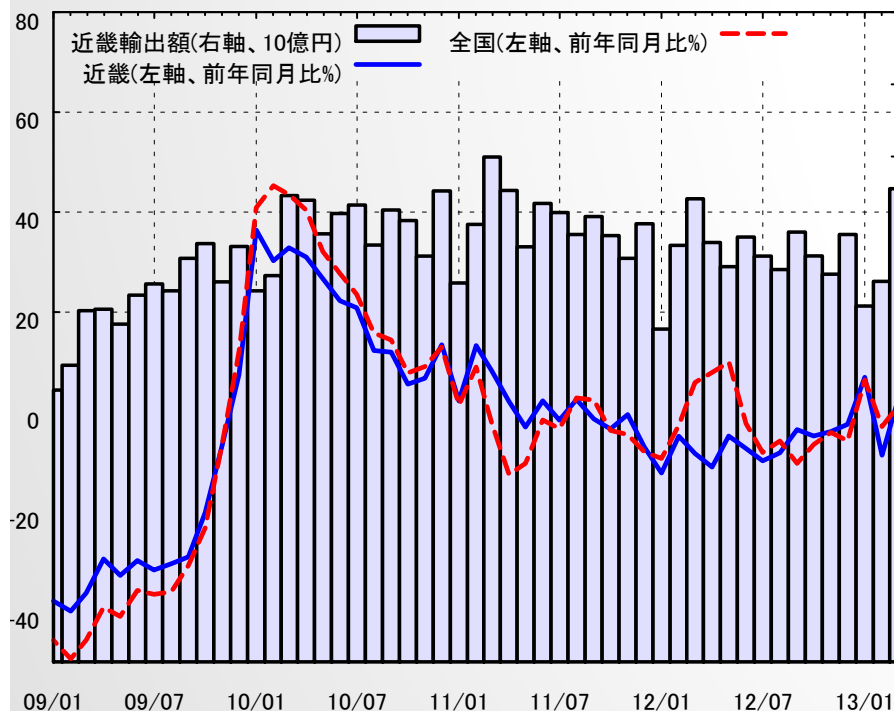


（データ出所：「鉱工業指数」（平成25年4月15日発表）、経済産業省）

- 近畿における2月の鉱工業生産指数（確報値：季節調整済）を見ると、生産は89.7で前月比-2.3%と3カ月ぶりの低下、出荷は90.7で同-0.9%と4カ月ぶりの低下、在庫は、99.4で同-1.7%と2カ月ぶりの低下。
- 近畿の生産を業種別にみると、化学工業、輸送機械工業、情報通信機械工業等が上昇し、一般機械工業等が低下した。
- 近畿では、全国に比して一般機械工業のウェイトが高く、輸送機械工業のウェイトが低い。これが結果に影響していると思われる。
- 全国における2月（確報値、季節調整済）の鉱工業生産指数は、89.6で前月比+0.6%と3カ月連続の上昇、出荷は91.3で同+1.4%と2カ月ぶりの上昇、在庫は102.6で同-2.0%と7カ月連続の低下となった。
- 一方全国では、輸送機械工業、食料品・たばこ工業、一般機械工業等が上昇し、電子部品・デバイス工業、化学工業、精密機械工業等が低下した。

～輸出入～

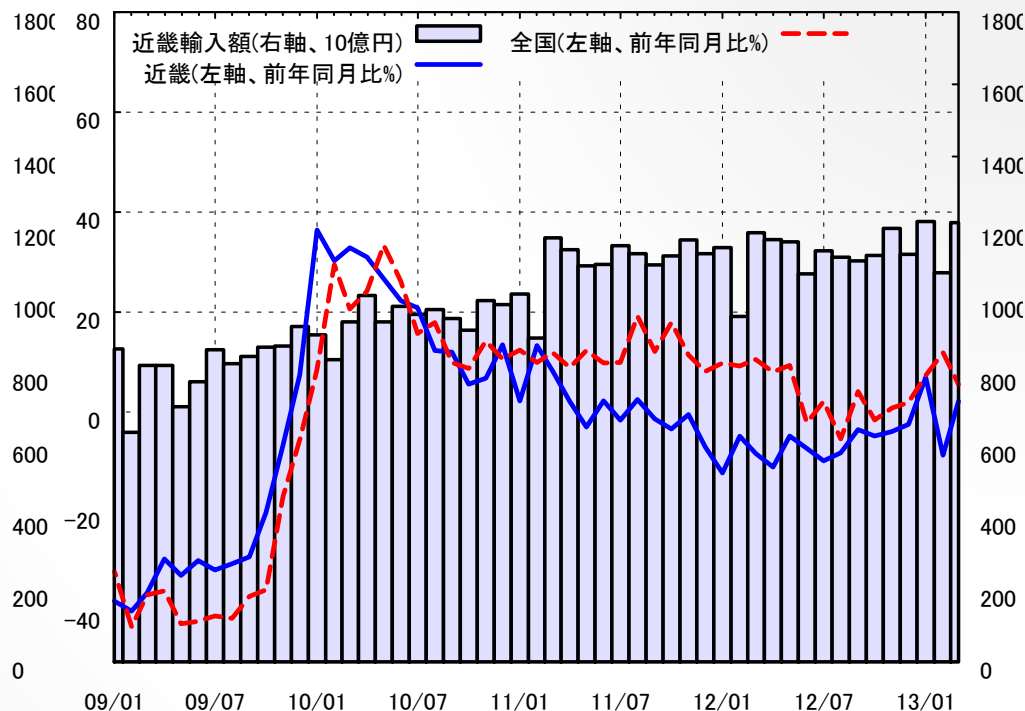
輸出金額・前年同月比増減率推移(2013年3月まで)



(データ出所: 「大阪税関貿易速報資料: 近畿圏」 (平成25年3月分 (速報値)、4月18日発表)、大阪税関調査統計課)

- 近畿圏における3月の輸出額(速報値)は1兆3,109億円、前年同月比+2.2%と2カ月ぶりの増加。
- 原動機、科学光学機器、有機化合物が増加。
- 地域別では、アジア(前年同月比+0.3%)、中国(同+0.4%)、EU(同+0.2%)への輸出が微増。米国向け(同+12.9%)は大幅に増加。
- 全国の3月の輸出額(速報値)は6兆2,714億円、前年同月比+1.1%と2カ月ぶりの増加。

輸入金額・前年同月比増減率推移(2013年3月まで)

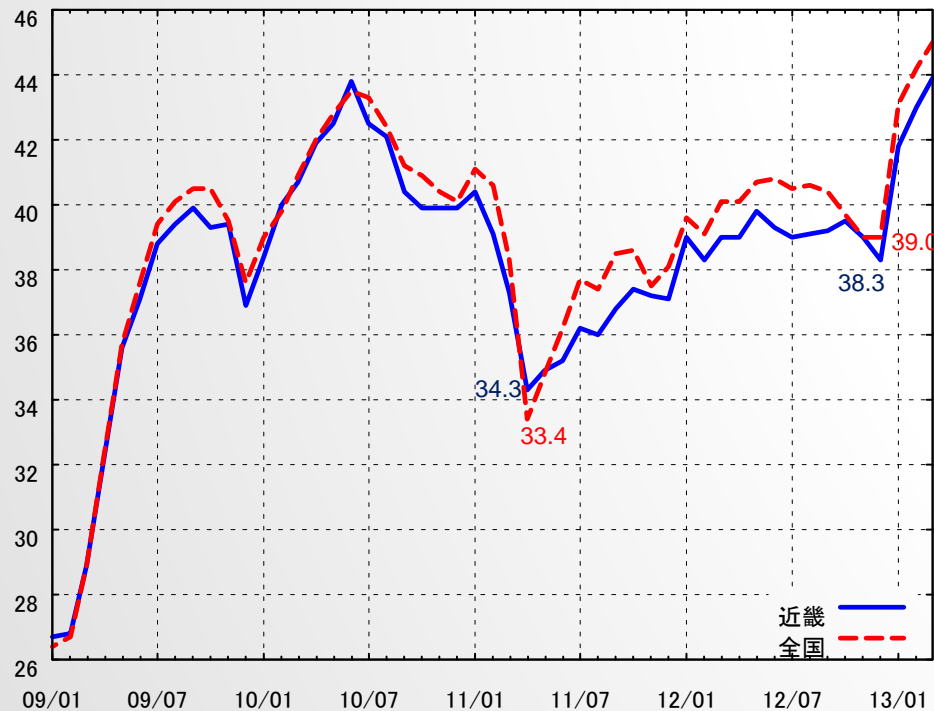


(データ出所: 「財務省貿易統計」 (平成25年3月分 (速報値)、4月18日発表)、財務省)

- 近畿圏における3月の輸入額(速報値)は1兆2,172億円、前年同月比+2.3%と3カ月連続の増加。
- 通信機、半導体等電子部品、原油及び粗油が増加した。
- 地域別では、アジア(前年同月比+5.9%)、中国(同+2.7%)、EU(同+8.1%)向けが増加。一方、米国向け(同-1.4%)は小幅減少。
- 全国の3月の輸入額(速報値)は6兆6,338億円、前年同月比+5.5%と5カ月連続の増加。

～消費者センチメント～

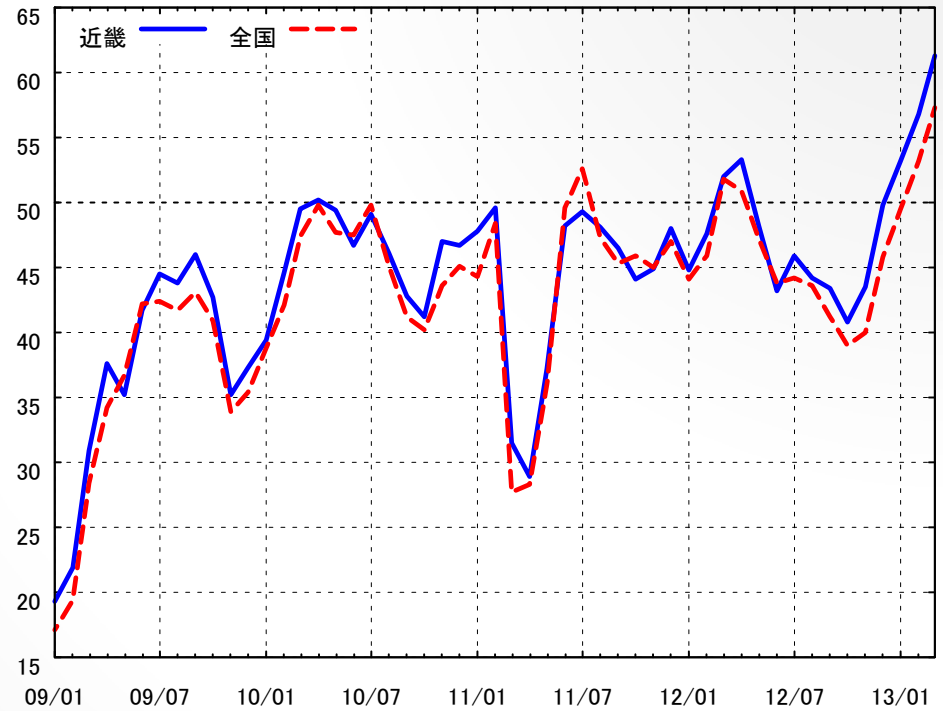
消費者態度指数(原数値、2013年3月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 近畿の3月の消費者態度指数は、前月比+0.9ポイントの43.9と、3カ月連続のプラス。
- 同指数の内訳をみると、「雇用環境」が同+1.7ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+2.0ポイントと大幅に上昇したほか、「収入の増え方」も同+0.5ポイント上昇。「暮らし向き」が同-0.4ポイントと3カ月ぶりに小幅悪化するも、4つの構成指標のうち3つが上昇している。
- 全国の3月の消費者態度指数は同+0.8ポイントの45.0と、3カ月連続のプラス。
- 消費者のセンチメントは12月を底として大幅に上昇。(38.3→43.9)

景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性、2013年3月まで)

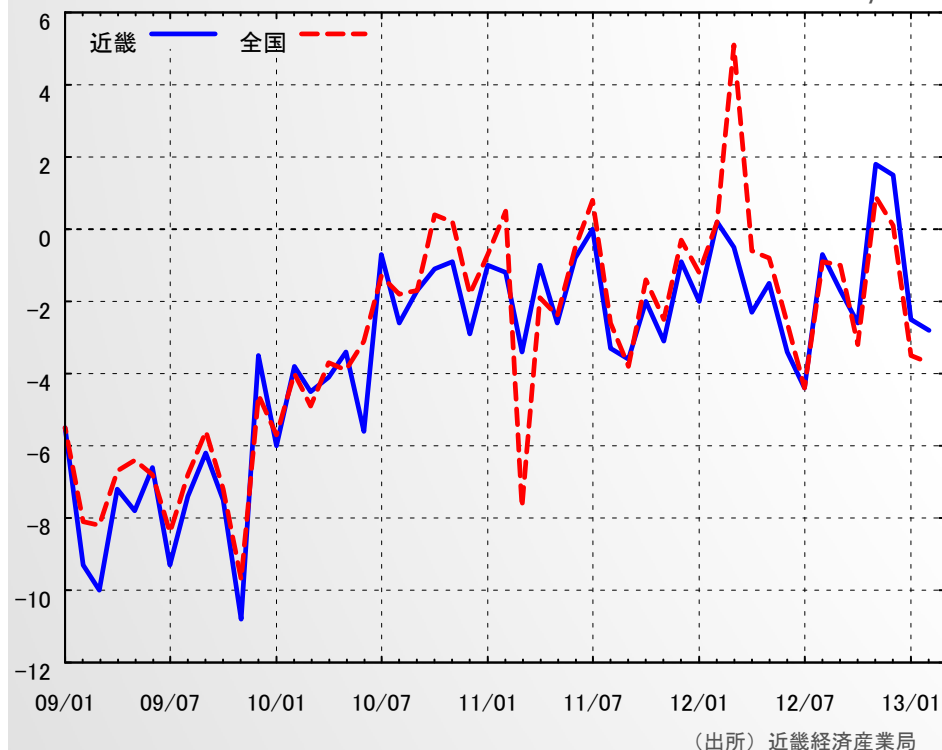


(出所) 内閣府

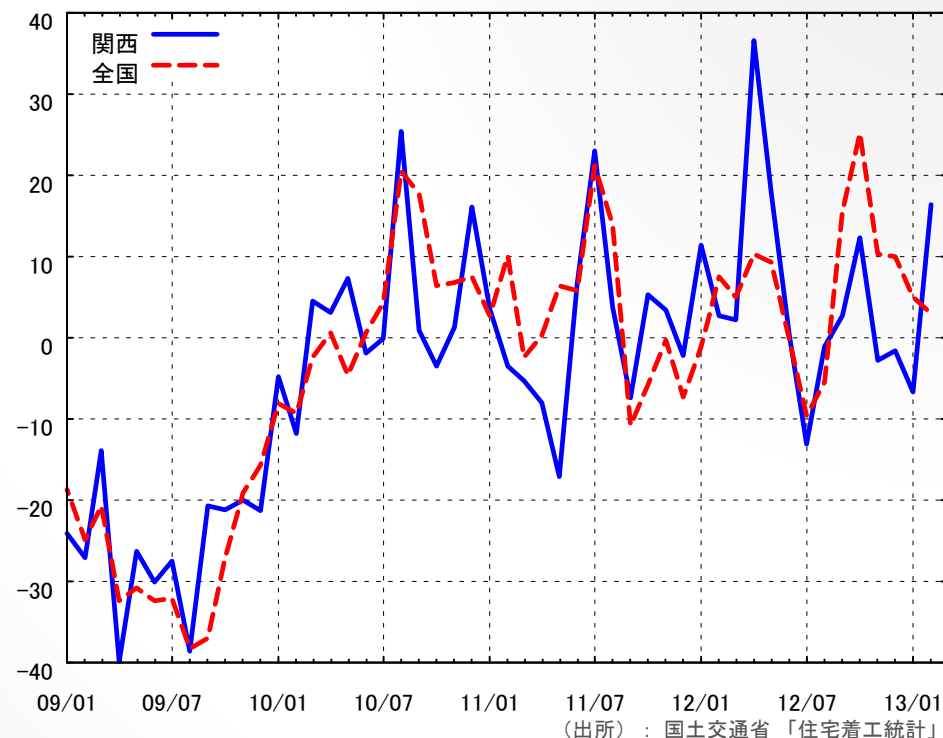
- 近畿の3月の現状判断DIは前月比+4.5ポイントの61.3と、5カ月連続の上昇。
- 株高から高額商品の売上げが好調だったほか、消費増税の駆け込み需要から住宅も好調。
- 全国の現状判断DIは同+4.1ポイントの57.3と、5カ月連続の上昇。
- 近畿の先行き判断DIは同-0.5ポイントの60.7と、6カ月ぶりに下落。
- 円安による原材料価格の上昇から消費マインド低下の懸念も。
- 全国の先行き判断DIは同-0.2ポイントの57.5と、5カ月ぶりに下落。

～個人消費・住宅～

大型小売店販売額（前年同月比：％、2013年2月まで）



新設住宅着工(前年同月比：％、2013年2月まで)

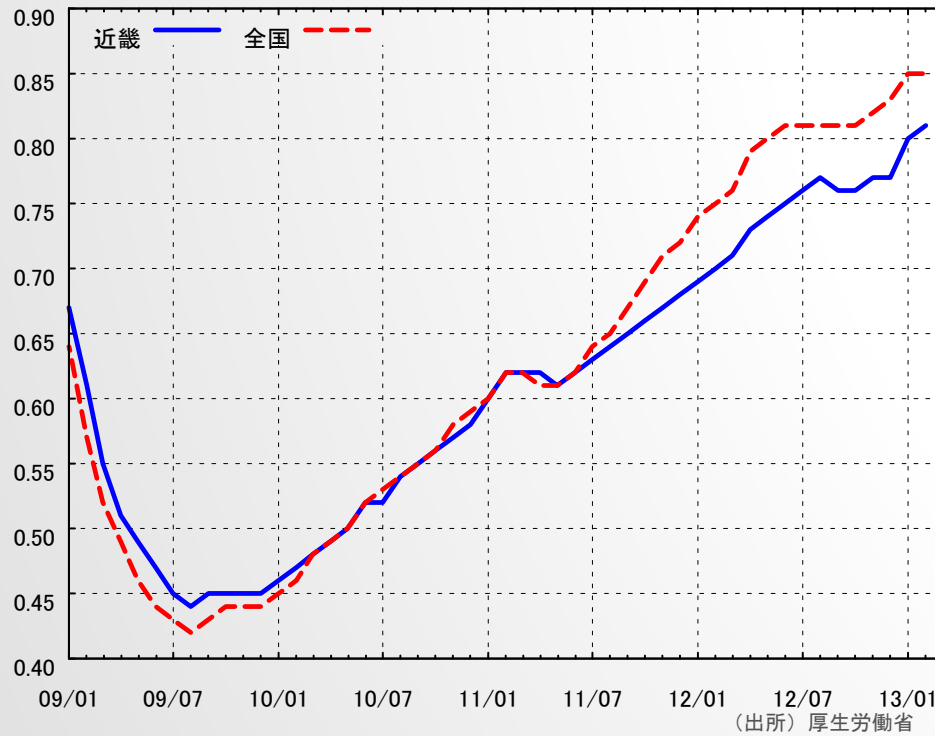


- 近畿の2月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比-2.8%と2カ月連続のマイナス。
- 百貨店は同+0.7%と4カ月連続のプラス。一部店舗の増床・リニューアル効果があったものの、閏年の翌年のため営業日数が減少したほか、気温低下で春物需要が伸び悩んだ。(近畿経済産業局)
- 全国の2月の大型小売店販売額(既存店ベース)は同-3.7%。2カ月連続のマイナス。
- グランフロント大阪の開業をはじめとし、今後、関西の消費には期待が持てる。

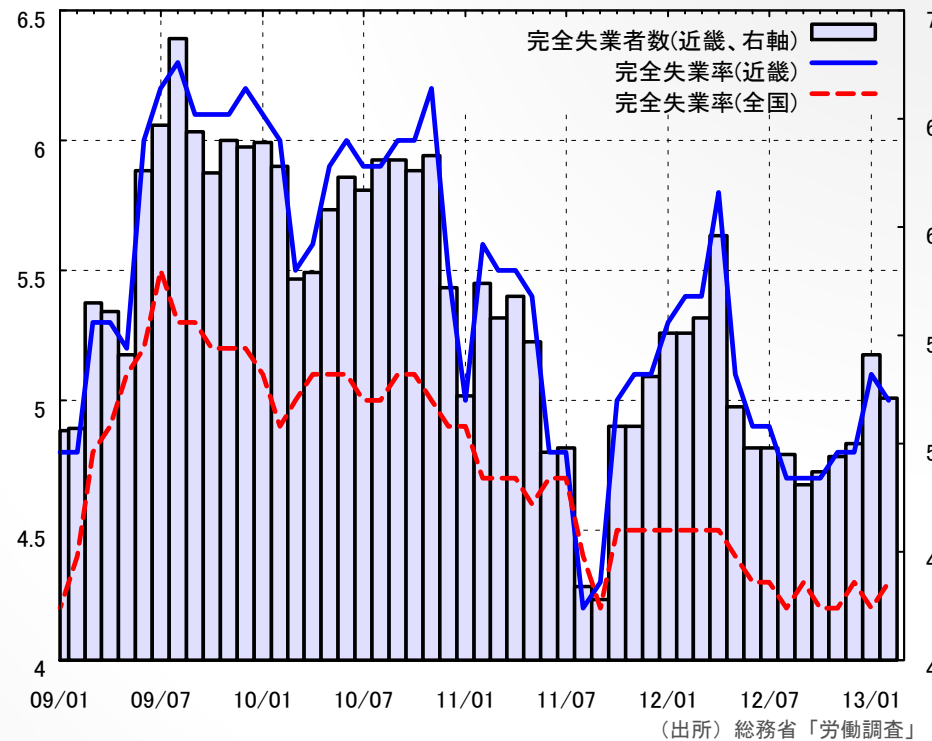
- 近畿の2月の新設住宅着工戸数は11,377戸。
- 前年同月比+16.4%と4カ月ぶりに上昇。利用関係別にみると、持家は同+10.5%、貸家も同+12.6%といずれも上昇している。特に分譲マンションが(同+48.2%)の上昇が大きい(寄与度：8.9ポイント)。
- 全国の2月の新設住宅着工戸数は同+3.0%。6カ月連続で上昇するも、上昇幅は小さくなりつつある。
- 3月の景気ウォッチャー調査でも示されているように、消費税による駆け込み需要が顕在化しつつある。

～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2013年2月まで）



完全失業率の推移（季節調整値、2013年2月まで）



地域別有効求人倍率2013年2月

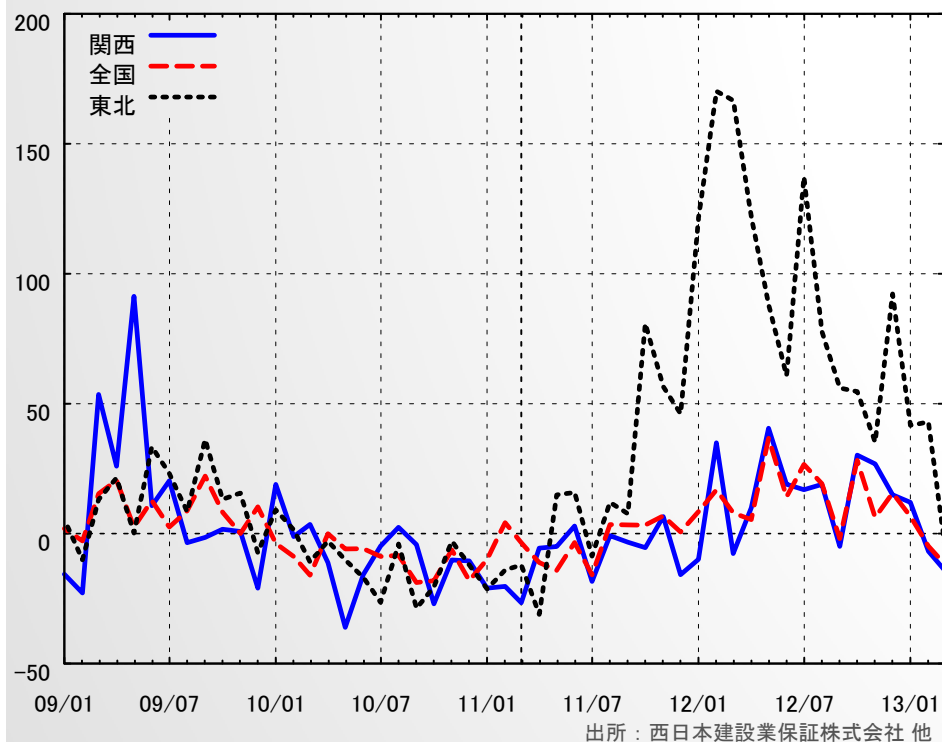
	全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
2月	0.85	0.67	0.99	0.85	0.82	0.97	0.99	0.81	0.96	0.91	0.69
1月	0.85	0.65	0.99	0.86	0.82	0.96	0.99	0.80	0.94	0.88	0.69

- 2月の近畿の有効求人倍率は0.81倍、前月から0.01ポイントの小幅改善。
- 全国は0.85倍で、前月から横ばい。
- 地域別にみると、建築など復興需要を背景に東北が0.99倍と高い。関西は北海道、九州を除けば低い水準にある。

- 2月の近畿の完全失業率（季節調整値：APIR推計）は5.0%と前月から-0.1ポイントと2カ月ぶりの改善。
- 2月の近畿の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は52万人。前月から1万人の減少。
- 2月の全国の完全失業率（季節調整値）は4.3%。前月から+0.1ポイントと2カ月ぶりに悪化。
- 全国と比べれば、近畿の労働市場の改善は緩やか。

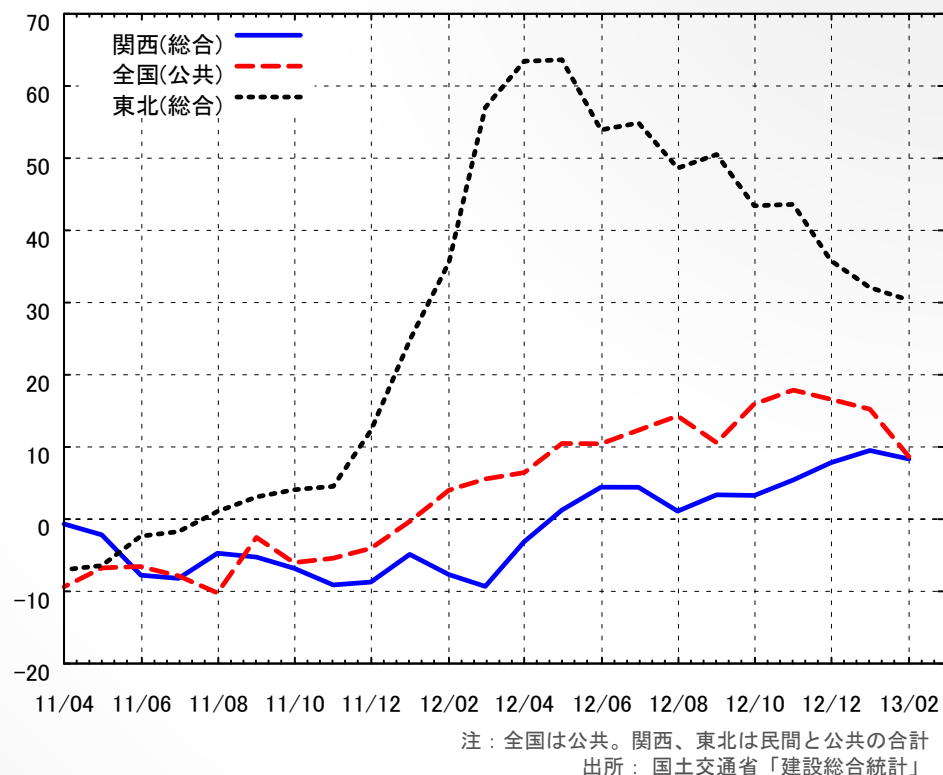
～公共投資～

公共工事前払保証額(前年同月比：%、2013年3月まで)



- 関西3月の公共工事前払保証額は1305億円。前年同月比-14.1%と2カ月連続のマイナス。
- 全国3月の公共工事前払保証額は1兆2338億円。前年同月比-11.7%と2カ月連続のマイナス。
- 一方、東北の公共工事前払保証額は同-4.1%となった。20カ月ぶりのマイナス。
- 季節調整値でみると、関西と全国の3月の受注は前月比減少しており、踊り場に入ったとみられる。

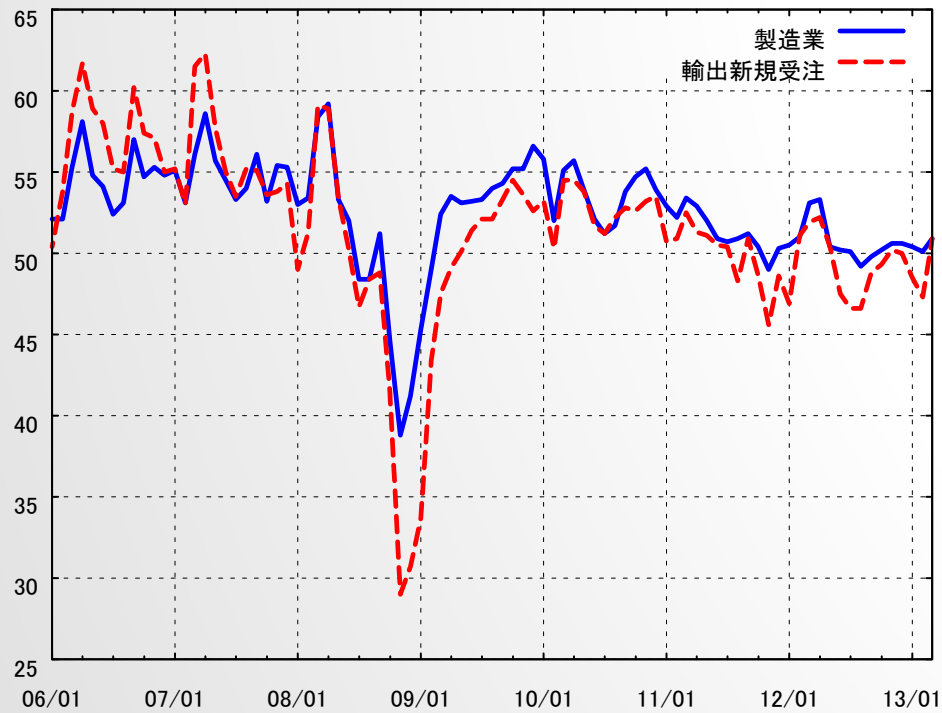
建設工事(前年同月比：%、2013年2月まで)



- 関西2月の建設工事(民間+公共)は5601億円。前年同月比+8.4%と10カ月連続のプラス。
- 全国2月の建設工事(公共)は1兆8515億円。前年同月比+8.6%と13カ月連続のプラス。
- 一方、東北の建設工事(民間+公共)は同+30.3%となった。19カ月連続のプラス。上昇幅は縮小しつつある。
- 補正予算の執行はこれからであり、関西の公共工事の減速は当面続く見通し。

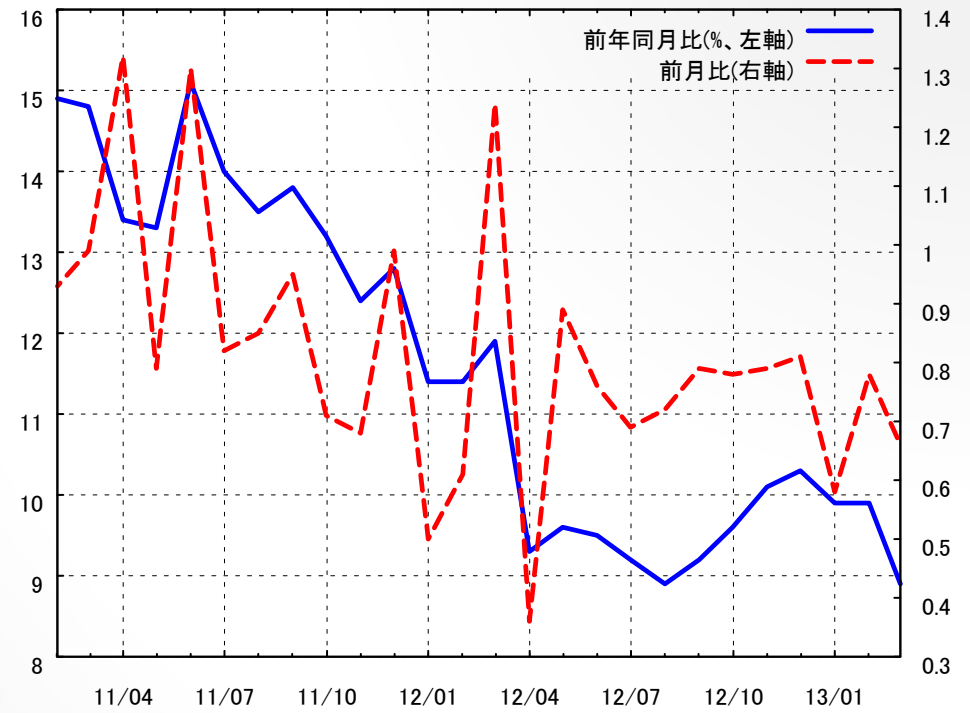
～中国経済動向①～

中国購買担当者景況指数(2013年3月まで)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

工業生産動向(2013年3月まで)



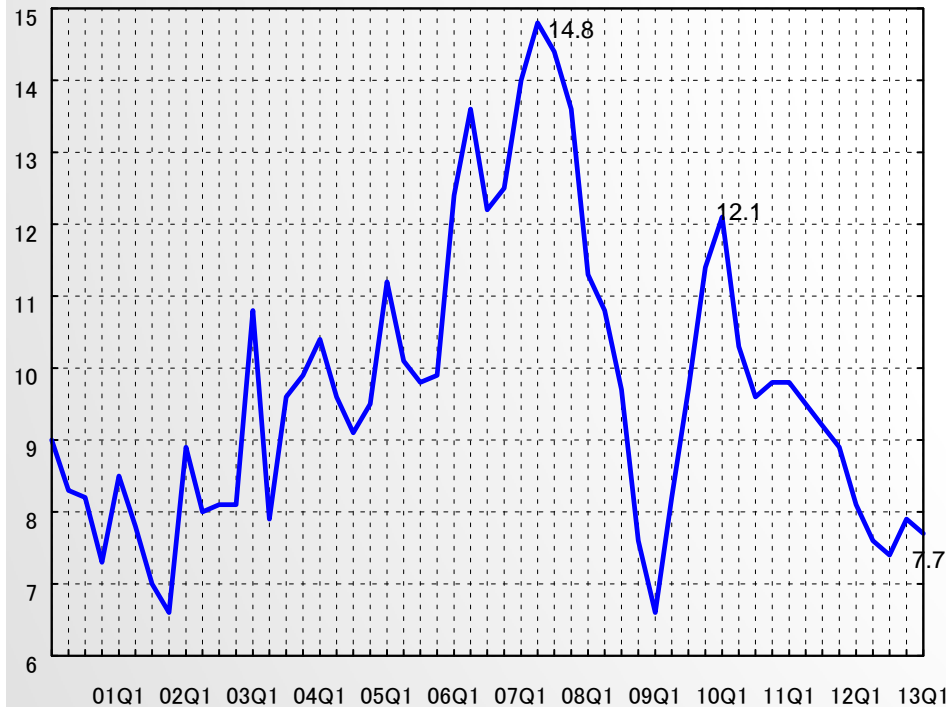
出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 3月の製造業PMI(購買担当者景況指数: 季節調整値)は前月から0.8ポイント上昇し50.9。4カ月ぶりの改善だが、水準は依然低い。
- 新規輸出受注PMIは前月から3.6ポイント上昇し、50.9となった。4カ月ぶりの改善。
- 春節が明け、好調な生産のスタートが期待されたが、実績は小幅改善にとどまった。

- 3月の工業生産は前月比+0.66%となり、2月に一時同+0.79%に回復したが、3月は再び低下した。
- 前年同月比で見れば、3月は+8.9%となり、2012年8月の水準にまで低下。工業生産は伸び悩んでいる。
- 製造業PMIがやや改善したものの、工業生産の拡大につながるのはいまだこれから。

～中国経済動向②～

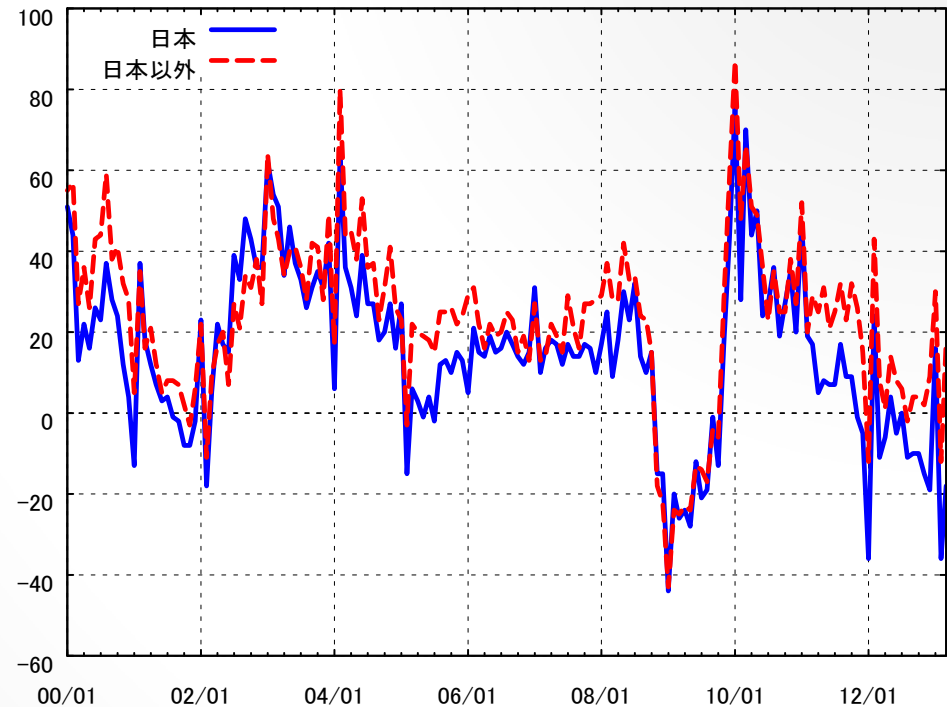
中国GDP四半期成長率(2013年第1四半期まで, 実質, %)



出所：中国国家统计局; CEICデータベース

- 2013年第1四半期の実質GDP成長率は前年同期比+7.7%となり、前期の同+7.9%より幾分低下した。
- 2010年第1四半期をピークに減速が続き、12年第3四半期に底を打ったが、一進一退である。
- 成長率は2000年代のピーク(07年第2四半期: +14.8%)と比べると大幅に減速したが、2000年代前半と比較して遜色のない水準であり、低成長段階に入ったとは言えない。

地域別中国の輸入(2013年3月まで; 前年同月比)



出所：中国税関(「中国海関」); CEICデータベース

- ドルベースでみた中国の対世界輸入(除く日本)は、3月に同+18.0%となり、1-2月期の同+7.4%から改善している。
- 一方、中国の対日輸入は、2013年3月に前年同月比-18.5%となった。1-2月期の前年同期比は-15.6%であり、減少幅に改善はみられない。
- これらから、日本のチャイナ・リスクの影響は無視できない。